

新人看護職員 月別目標とそれに対する集合研修

	毎月の到達目標	集合研修
4月	<p>病棟に慣れる 病棟の特徴・構造・設備などを知る。バイタル測定、検査出し、環境整備、シーツ交換、救急カートのチェック ストック請求ができる。シャドーイングで観察、生活援助ができる、異常が分かる、週間業務が理解できる、 情報収集ができる。CWとオムツ交換、入浴の送迎ができる。採血ができる 同期とコミュニケーションが取れる、職員に率先して挨拶ができる</p>	<p>VS・移動・パルン・排泄ケア・褥瘡・採血・注射・血糖測定・インスリン・吸引・酸素・ネブライザー・食事介助・口腔ケア・経管栄養・与薬・麻薬・清潔操作 離床センサー 心電図・モニター・医療機器</p>
5月	<p>患者を受け持つときは1～4人 先輩と一緒に観察。タイムスケジュールが立てられる。カルテの記載ができる。 検査出しの自立を増やす。ポリベクの入院、退院処理が指導の下でできる。医師の処置の介助が指導のもとでできる。ナースコール対応、排泄の介助、ケアとケアの記録が自立でき報連相ができる。ルートキープができる。 先輩と一緒に行為認証をし、点滴投与ができる。内服の与薬ができる。</p> <p>患者とコミュニケーションが図れる、処置や介助ではなく看護を、1患者に1個以上自分で考える事ができる</p>	<p>・輸血・メンタルサポート ・看取り</p>
6月	<p>先輩と一緒に、患者の症状や訴えを観察し、報告・記録ができる(1～4人)、先輩と一緒に病態生理の関連図が描ける、一日のケアの計画を立てることができる、先輩と一緒に医師回診・処置の介助が一つ自立できるポリベクの入退院処理が自立できる、内服・注射が手順に沿って確実に投与できる</p> <p>先輩とコミュニケーションが図れる、処置や介助ではなく看護を1患者に1個以上実施ができる</p>	プリセブ研修
7月	<p>先輩と一緒に、患者の症状や訴えを観察し、報告・記録ができる(1部屋)、1週間は同室とする、先輩と一緒に1日の看護計画を立案・実施ができる、入院の受け入れが先輩と一緒にできる、医師の回診・処置の介助の自立が増える。指導のもとリーダーへの申し送りができる。看護記録が自立できる。</p> <p>チームメンバーとしての役割を知ることが出来る、患者の笑顔を見ることができる</p>	<p>・急変時の看護 I・人工呼吸器</p> <p style="text-align: center;">パール研修</p>
8月	<p>一人で2部屋受け持つことができる、入退院の処理ができる、受け持ち患者の看護計画が指導のもと立案できる、症状の変化・異常が理解でき報告できる、状況に応じて応援依頼ができる、看護記録が自立できる、リーダーへの申し送りができる</p> <p>患者と一人でコミュニケーションを十分とることができる。患者の不安が理解できる</p>	
9月	<p>一人で2部屋(補助アサインメントなし)受け持つことができる。指導の下重症観察の患者を見る事ができる指導のもとME機器のアラームの対応ができる</p> <p>患者の思いや不安に対して傾聴することができる</p>	・多重課題
10月	<p>10～12人の受け持ちができる 指導のもと休日日勤ができる、看護計画の立案実施が一人で出来、指導のもと評価ができる、指導のもと患者や家族の指導ができる、急変が理解でき、応援要請が出来る、指導のもと重症患者の観察ケアができる、麻薬の管理、運用方法が理解できる。</p> <p>病棟勉強会で与えられたテーマについて調べてまとめることができる</p>	<p style="text-align: center;">ローテーション研修(外来・透析)</p> <p style="text-align: center;">プリセブ研修</p>
11月	<p>指導のもと深夜業務の流れが理解できる、急変が理解でき、応援要請や物品準備ができる、指導のもと重症患者の観察ケアができる</p> <p>患者の不安や思いに対して傾聴し、受容することができ、看護計画に反映できる</p>	<p>急変時の看護 II 夜勤前研修</p> <p style="text-align: center;">パール(リフレッシュ)研修</p>
12月	<p>指導のもと深夜業務ができる、自分の経験していない技術を洗い出し、積極的に関わることができる。看護過程の展開を考えることができる、見守りのもと重症患者の観察ケアができる</p> <p>困難事例に対して、先輩に相談できる</p>	
1月	<p>日常ケアの優先度を決めながら、ケアが出来る。深夜の一人立ちができる</p> <p>患者を個人として尊重できる、自己の役割と責任を認識できる</p>	
2月	<p>自己の看護技術の到達度を理解できる、指導のもと準夜業務の流れを理解できる</p> <p>受持ち以外の患者のことも配慮できる。自己の能力を超えた看護を求められた時は相談応援依頼ができる</p>	
3月	<p>次年度の課題や目標設定ができる、指導のもと準夜業務ができる。経験から継続的に学習することができる</p> <p>関わった患者のことを語ることができ、自己の看護観を考えることができる</p>	プリセブ研修 パール研修
4月	<p>準夜業務が一人立ちできる。患者のニーズが理解でき、個別的に考えることができる</p> <p>看護の喜びを体験できる</p>	